

Yumeken

夢けんせつ
DREAM CONSTRUCTORS

春

2020 Vol.691

◆特集〇話題の焦点

担い手確保の新たな一手 リクルートキャラバンの取り組み

◆夢インタビュー

大学卒業後にマキノ町に移住

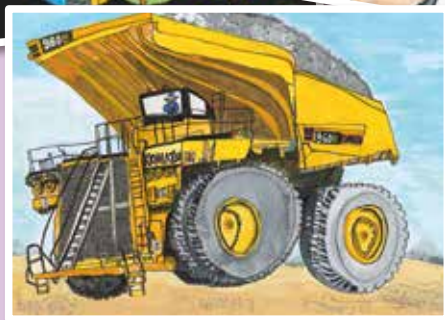
田舎体験付き農家民宿で高島の魅力を発信

◆行ってみよう

光秀ゆかりのスポットを訪ねて

◆おじゃまします

株式会社 山崎砂利商店



担い手確保の新たな一手 リクルートキャラバンの取り組み

労働人口の減少で人材確保が難しくなっていますが、中でも建設業界の人手不足は深刻です。

昨年、滋賀県建設業協会では、高校や高等専門学校、大学の生徒や学生、先生との交流、意見交換等を通じて、「建設業の仕事のやりがい」や「滋賀県の魅力」をPRすることで、滋賀県の建設業で働きたいという若者をリクルートすることを目標に、「リクルートキャラバン」を立ち上げました。

今回は滋賀県の取り組みと合わせて、その背景や課題、今後の展開などについてレポートします。



**「リクキャラ」が目指すもの
業界が一体となって
滋賀の建設業をPR**

インフラの維持管理のための技術者を育成する活動などに取り組んできた、滋賀県建設業協会のアセットマネジメント推進委員会から、人材確保の必要性について提言があり、昨年結成されたのがリクルートキャラバン、通称「リクキャラ」です。

**15年で1万6,000人減少
滋賀県の建設産業で働く人の高
齢化が進むと…**

滋賀県で建設業に従事する人は、2000年には約5万6,000人いましたが、2015年には3万9,963人となりました。滋賀県は製造業に従事する人が多いことも要因ですが、15年で就業者数が1万6,000人も減少しました。全産業の就業者数のうち建設業従事者が5.9%というのは、全国で45番目という低い割合になっています。さらに、50歳以上が増加し、30歳代以下、特に10〜20歳代の割合が減っています。このまま高齢化がどんどん進んでいくと、公共工事など社会資本を整備するためのさまざまな工事のニーズに応えられなくなるほか、橋や道路などの維持管理を担う技術者も足りなくなります。

また、地方の建設会社は建設工事以外にも、除雪や災害復旧など地域の人々の暮らしを守る役割も担っているため、地域の経済や暮らしを支える大切な基幹産業です。その建設業を守るために人材確保は避けて通れない課題です。



リクルートキャラバンとして活動をスタートした桑原さん、田中さん、内田さん（右から）。

土木、建築、維持管理のそれぞれの分野の担当者を選出することになり、白羽の矢が立ったのは株式会社桑原組の桑原勇人さん、株式会社内田組の内田種生さん、田中シビルテック株式会社の田中和孝さんという、次世代を担う若手メンバーでした。

協会ですでに取り組んでいた「滋賀けんせつみらいフェスタ」や「中学・高校等への出前授業」の経験をもとに、高校・高等専門学校・大学の生徒や学生、先生と直接接して、「滋賀県の建設業で働くことのやりがい」や「滋賀の魅力」を伝え広げ、建設業協会会員企業へのリクルート活動を展開していこうという試みです。

昨年11月には三日月大造知事の定例記者会見に出席して取り組みを紹介したほか、国立舞鶴工業高等専門学校を訪問して、建設システム工学科で学ぶ滋賀県出身の学生たちと、県土木交通部の職員も交えて座談会を行いました。



バスケットの持ち手のように見えるアーチ部

補剛桁とケーブルの架設工事

横桁の吊り下げ工事



まず、両岸からアーチ部分の建設が進められる。



滋賀県では大津市の国道1号から甲賀市、三重県伊賀市などを経て紀北町に至る国道422号で、災害による土砂流出などの影響で通行止めになることが多かった瀬田川沿いの区間を迂回できる、バイパス道路「大石東バイパス」の整備を進めてきました。

バイパス路の起点となるのが瀬田川に架かる橋で、平成24年度から用地測量が始まり、27年度に着工、30年度に橋梁の工事が終わり、その後取り付け道路の工事が行われました。



橋を架けるために建設された鉄塔設備

橋が架かるところは、瀬田川と大戸川の合流地点で、河川内に橋脚を設けることが難しかったことから、橋脚のない橋梁形式が検討されることになり、橋脚なしで176メートルに対応できる形式の中から、「ニールセンローゼ橋」が採用されました。ニールセンローゼ橋は、曲線のアーチリブから桁を補強する補剛桁^{ほうこうがら}まで、斜めにケーブルを張ったもので、アーチ効果による優れた耐荷力やケーブルを吊り材として用いることによるオープンな視界などが特徴です。

さらにアーチリブの上部が内側に傾斜している「バスケットハンドル型ニールセンローゼ橋」という形式によって、橋全体の強度を高める構造になっています。正面から見るとバスケットの持ち手の部分とかがたが似ていることからその名が付けられました。



完成した瀬田川令和大橋

表されるのを待つ、「瀬田川令和大橋」という名称が決定され、国道の橋の名称に「令和」が使われるのは全国初であったことから注目を集めました。

完成した「瀬田川令和大橋」は、高さ27メートル、全長176メートルで、景観に調和する美しい形が印象的です。令和元年5月26日には自治連合会主催の渡り初め式が執り行われて、多くの地元住民が橋の完成を祝いました。

●大津市南郷六丁目 ●発注者 滋賀県大津土木事務所
●工 期 平成27年12月22日〜平成30年6月26日

C O N T E N T S

湖けんせつ
[DREAM CONSTRUCTION]
2020 Vol.691 春

湖国街かどウォッチング……………2
瀬田川令和大橋（大津市）……………3

特集・話題の焦点……………3
担い手確保の新たな一手
リクルートキャラバンの
取り組み……………6

行ってみよう……………6

光秀ゆかりの
スポットを訪ねて……………8

おじゃまします……………8

株式会社山崎砂利商店……………10

絵画「コンクール入賞作品」……………10

夢インタビュー……………13

大学卒業後にマキノ町に移住……………13

田舎体験付き農家民宿で……………13

高島の魅力を発信……………13

『たらいち郎』共同代表……………13

河野至宏さん……………13

夢けんひろば……………14

ビジネス最前線……………16

株式会社市川農場……………17

「仕事の達人・遊びの達人」……………17

草野球やゴルフ、マラソン、……………17

ロードバイクなど仲間に恵まれ……………17

のびのびと楽しむ休日……………17

桐畑剛さん……………17

クイズ……………17

近江つまいもの紀行……………18

読者の声……………18

取材こぼれ話……………19

編集後記……………19

表紙写真……………19

「ドリルコンボイマー」中井 通斗……………19

「強いをタンカー」新庄 安憲……………19

「くいのえ南 早弥汰……………19

「何ができるの？」南光 純幸……………19

「夢の未来の工事現場」中塚 貴博……………19

「未来の地下住宅」高橋 廉斗……………19

「滋賀湖と御堂丸」津 叶……………19

「鉄塔工事」兵衛 叶望……………19

「必死でたたく機械」伊吹……………19

「比叡山延暦寺」松吉 美奈帆……………19

「安土城野田 咲校……………19

「瀬田の唐橋」今昔も交通の要衝へ平松 重大……………19

**若手がメンバーに
本音トークで
就活生の心をつかめ！**

3名とも就職活動をしている若者に近い年齢なので、本音で語り合えるのが強みです。座談会では、用意したカードを引いてもいい、そこに書かれたテーマについて話してもらったりなど、いろいろな工夫したことで、学生と社会人であるメンバーの垣根を超えて、普段どんなことを考えているのかなども知ることができたと、手応えを感じています。

学生たちの印象について、「大企業志向、安定志向があつて、県に帰りたいという学生は少数派ですが、生まれ育った滋賀で貢献できることなどをもっと働きかけていきたいと感じた」と内田さん。

田中さんは、「きつかけづくりとして良い機会を持た。先輩の影響が大きいことを考えると、学生さんこれからも関係性を持ち続けて、就活生と業界の架け橋のような存在であり続けたいと思った」と振り返ります。

都会の大企業で働きたいという学生が多いことについて、桑原さんは「スーパーゼネコンは特化した技術が求められるけれど、地方の建設業はいろいろな工事や仕事ができる。土木や建築のすべてに携わることができるということアピールしていきたい。こんな仕事があったらいいけど、どんな技術者になりたいか、どう成長したいかという人間的なところも大切になる。先輩たちの仕事姿を見てもらい、関わったものがランドマークになったりするという、ものづくりの素晴らしさをしっかりと伝えることで、建設業の仕事が身近に感じられるのではないかと考えています。

活性化および担い手確保するため、官民協働で建設業の魅力発信する取り組みを実行する組織として、2015年に「滋賀県建設産業魅力アップ実行委員会」を設立しました。



三日月知事の定例記者会見に出席して、リクルートキャラバンの発足を報告。

建設業の魅力ややりがい伝えるために、イラストで建設業の仕事を紹介する広報誌を発行したり、県内の学校への出前授業や現場見学会、モノづくり体験イベントなどを実施するほか、重機の試乗体験などたくさんの方々が参加する大規模イベント「滋賀けんせつみらいフェスタ」を毎年開催しています。

けんせつみらいフェスタは親子連れが多く、重機試乗体験やさまざまなブースで、楽しみながら土木の魅力に触れてもらっています。また、中学・高校を中心に出席授業にも熱心に取り組む、建設会社の社員に具体的な仕事の内容ややりがいについて語ってもらう



昨年11月21日に舞鶴工業高等専門学校で行われた滋賀県出身の学生との意見交換会。



米原市立河南中学校で行われた出前授業



滋賀県立長浜農業高等学校で行われた出前授業

たり、ドローンや測量機器など最新の技術を紹介して、中高生へのPRを行ってきたほか、

**活動のこれから
就活に困ったら
リクキャラに相談**

リクキャラの活動としてまず、地道に学校まわりをしながら、Webも活用してさまざまな情報を発信していくことを次年度の目標に掲げています。田中さんは「現場見学会のほか、Web媒体を使って見学会の様子を配信したり、県内の建設会社を紹介するなど、もっと学生さんの目にふれるような工夫をしていかなくてはならない」と指摘します。



県内の高校生や大学生を対象として実施している現場見学会。



そして、今後は滋賀県出身の学生だけでなく、県外から来て県内で学ぶ学生とも話す機会を持つようにしていきたい、発信だけでなく、その後のフォローをどうするかということも考えていきたいとしています。

さらに、「県内には今、建築を専門に学べる高校が一つあるのみで、土木に至っては専門に学べる高校が一

建設工事のダイナミズムを体験できる工事の現場見学会なども実施しています。



「けんせつみらいフェスタ」の現場見学会

県土木交通部技術管理課の白井秀人副主幹は「事業を通して、建設業のイメージアップに貢献し、建設業の果たす役割への理解も進んだと思うが、今後も息の長い取り組みが必要になる」と指摘します。

また、県土木交通部技術管理課の松田篤史課長補佐はリクルートキャラバンについて「それぞれの建設会社が独自に働きかけるのではなく、業界として取り組んでいくこととしていくところが強み」と評価します。そして、「進路や就職先を考え始める時期である高校生や高専生、大学生などに直接働きかけて、



県土木交通部の松田課長補佐（右）と白井副主幹

つもない。そのことをおそろくほとんどの県民のみなさんは知らないと思うが、選択肢が少ないと将来建設業に携わる若者も少なくなるし、そうなると滋賀の建設業の将来はどうなるかということも伝えていくことが必要」と内田さん。

「女性技術者の採用についても、建設業で女性がどうしたら活躍できるかをきちんと考えていかないといけない、いいことばかり伝えるのではなく現状や課題、それに対する業界の取り組みなど、真摯な情報提供が必要になる。また、一口に建設と言っても幅広い業種があることも知ってもらい、滋賀の建設業全体を活性化することを目標に活動していくことに意義がある」と桑原さん。

今後は中途採用にも目を向け、地元にはターンの、ターンのしてくる人材の受け皿になることも、県の移住制度などと絡めて考えていくなど、ゆくゆくは就活で悩む若者が、「困った時はリクキャラに相談したらアドバイスしてもらえ」という存在を目指しています。

そして、産官学の相談がすべてリクキャラに来て、「したい仕事」と「ほしい人材」のマッチングができるほどになれば、滋賀でいきいき働く技術者がもっと増えるのではと期待を寄せています。

**行政も応援
目指すは官民一体となった
息の長い取り組み**

滋賀県でも早くから建設業の人手不足に危機感を抱き、2013年には「滋賀県建設産業活性化推進検討会」を立ち上げ、今後どう活性化していくかを検討しました。業界の

一方的に伝えるだけでなく、学生の思いや希望を汲み取ることを重視しているため、より採用にも結びつきやすいのではないかと、今後の展開に期待しています。

3月17日には滋賀県立大学で建築を学ぶ学生とリクキャラのメンバーが顔合わせを行いました。

メンバーのみなさんは、他府県の動きも注



滋賀県立大学で行われた学生との顔合わせ

視し、また同じような取り組みを行っている団体などと連携しながら、活動の範囲を広げていくことも今後は見据えていきたいと考えています。

リクキャラの活動はまだ始まったばかりですが、業界と行政が一体となって、先を見据え、地に足の着いた取り組みを続けていくことで、5年後10年後に、滋賀県の建設業の担い手となる技術者が育ってくれることを期待したいと思っています。

明智左馬助 湖水渡りの碑

光秀が破れたという知らせを受けた光秀の娘婿、明智秀満（左馬之介）は、安土城から坂本城を目指し現在の天津市打出浜周辺まで駆けつけますが、秀吉軍と遭遇します。秀満は馬に乗ったまま琵琶湖に乗り入れ、浅瀬を渡り唐崎までたどり着いたという伝説が残されています。



●天津市打出浜15-15
【アクセス】京阪電車島の関駅または石場駅から徒歩5分

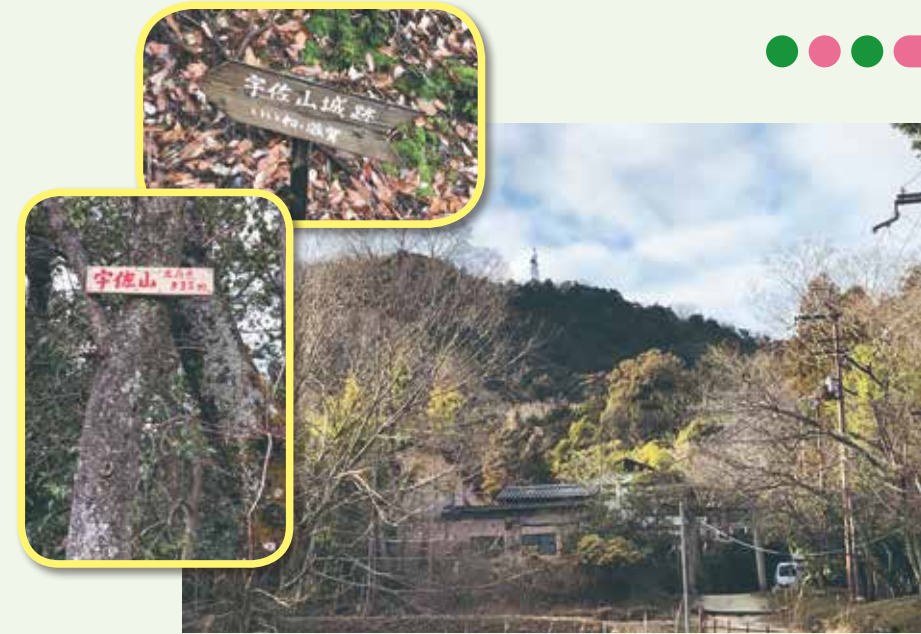
坂本城跡



●天津市下阪本三丁目
【アクセス】JR天津市駅から江若バス下阪本下車、徒歩3分
湖西道路下阪本ICから5分

宇佐山城跡を訪ねたら、足を伸ばして坂本へ。光秀と運命を共にした坂本城は、琵琶湖の水を引き入れた水城で、大天守と小天守を持ち、当時としては随一の規模を誇りました。しかし、本能寺の変の後、城は落城、その後天津市城が完成すると廃城となり、建物の多くが移築されて城跡は田畑や住宅地となりました。

現在は坂本城址公園として整備されていて、遺構の大半は水中に没していますが、渇水期には湖面から石垣が現れるそうです。



標高335メートルの宇佐山。電波塔の建っているところに宇佐山城本丸があった。

近江神宮の裏手にある標高355メートルの宇佐山山頂には、信長が家臣の森可成（＝森蘭丸の父）に築かせた山城がありました。越前方面から坂本を経て天津市に通じる街道を見渡せたことから、宇佐山に城が築かれました。

元亀元年（1570年）に、大坂本願寺の攻撃に向かった織田信長のすきをついて攻め入った、浅井・朝倉連合軍との合戦で可成は討ち死にします。その後、信長と連合軍が和睦し、可成に代わって城主になったのが光秀でした。そして、翌元亀2年9月、信長はここを拠点として比叡山に攻め入りました。

その後、光秀は信長から滋賀郡を与えられ、翌元亀3年には坂本城を築き城主となり、宇佐山城は廃城となりました。

本丸のほか二の丸、三の丸がありましたが、今は残された主郭（本丸）と二の丸の石垣が、かつてここに城があったことを伝えています。信長が天正4年（1576年）に安土城を築く以前に、近江で最も早くに石垣を用いて築いた貴重な城郭の遺構です。

三の丸跡からは坂本のまちと琵琶湖の眺望を楽しむことができます。山腹にある宇佐八幡宮は、源頼義によって治暦元年（1065年）にこの地に勧請されたと伝えられています。



三の丸からは琵琶湖と坂本のまち並みを見下ろすことができる。



宇佐八幡宮の参道を登り始める。



残された石垣が城があったことを伝えている。



本丸へは結構急な登山道が続く。



宇佐八幡宮へと続く参道

●天津市南滋賀町
【アクセス】京阪電気鉄道石山坂本線・近江神宮前駅下車、宇佐八幡宮まで徒歩約30分、本殿右手の登山道から本丸跡まで約15分
※登山道はかなり傾斜のきついところもあるため歩きやすい靴でおでかけください。

田中城跡

信長に仕える以前のことは資料が少なく、謎の多い前半生と言われる光秀。熊本藩次席家老、米田家に伝わる「米田文書 針葉方」の中に、「永禄9（1566）年頃、高嶋田中城で籠城している時に、光秀が薬を調合していた」という記録が残っていることから、医術の心得があったのではないかという説も最近、注目されるようになりました。

高島市にある田中城跡は、佐々木氏・田中氏の居城で、現在も多くの曲輪跡、土塁、堀切跡などが残っています。

●高島市安曇川町田中
【アクセス】JR安曇川駅から横山・田中線バスで「馬場」下車、徒歩約20分



こちらのスポットにも注目！

十兵衛屋敷跡（多賀町）



光秀（通称：十兵衛）については、どこで生まれ、どこで幼少期を過ごしたのかを伝える資料もなく、通説では美濃国(岐阜県)の出身ではないかと言われています。

最近の研究で、多賀町佐目に伝わる「佐目の十二相神社近くに光秀が住んでいた屋敷があった」という伝承と、「淡海温故録」という古文書の記載が一致していることがわかり、話題になっています。

この佐目には「見津」という一族がいて、これは光秀の光に「見津」という字を当てたのではないかと言われている。また、本能寺の変の後、山崎の戦いには光秀に加勢する武将は少なかったのに、多賀町の武士は味方していることから、光秀と多賀町との関係が深かったことがわかります。

●犬上郡多賀町大字佐目465
【アクセス】彦根ICから車で約20分、多賀大社前駅から車で約15分（国道306号経由）

大溝城



天下統一を目指す信長が、高島郡支配の拠点として、天正6年（1578年）に甥の津田信澄に築かせた大溝城。坂本城と同じように琵琶湖に浮かぶ水城で、光秀が縄張り（設計）を行ったと伝えられています。

信澄は光秀の娘を正室にしていたため、本能寺の変の後、明智方と見なされ、大阪で殺害されました。その後、目まぐるしく城主が変わりましたが、元和5年（1619年）に分部光信がこの地に入り、大溝藩として明治維新を迎えました。現在は天守台の石積みのみが残っています。

●高島市勝野
【アクセス】JR湖西線・近江高島駅から徒歩約5分、湖西道路・志賀ICから車で10分

問い合わせ

●天津市観光案内所 077-522-3830 ●坂本観光案内所 077-578-6565
●びわ湖高島観光協会 0740-33-7101 ●一般社団法人 多賀観光協会 0749-48-1553

【写真】坂本城跡：びわこビジターズビューロー 高嶋田中城跡、大溝城：びわ湖高島観光協会 十兵衛屋敷跡、十二相神社：（一社）多賀観光協会

Leisure Spot ● SHIGA

行ってみよう

光秀ゆかりのスポットを訪ねて

天津市・高島市・多賀町

今年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公明智光秀。有名な比叡山焼き討ちの翌年、織田信長から滋賀郡を与えられた光秀が築いた坂本城や、明智一族の菩提寺である天台真盛宗総本山 西教寺など、滋賀県には光秀ゆかりのスポットが数多くあります。今回は、光秀が城主となり、比叡山焼き討ちの拠点となった宇佐山城跡を中心に光秀の足跡を訪ねました。

今年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公明智光秀。

有名な比叡山焼き討ちの翌年、織田信長から滋賀郡を

与えられた光秀が築いた坂本城や、明智一族の菩提寺で

ある天台真盛宗総本山 西教寺など、滋賀県には光秀ゆか

り

のスポットが数多くあります。

今回は、光秀が城主となり、比叡山焼き討ちの拠点と

なった宇佐山城跡を中心に光秀の足跡を訪ねました。

三方良しの理念は変わることなく 社会のニーズを捉え成長し続ける企業を目指し 土のプロフェッショナルとして進化を続ける

株式会社 山崎砂利商店

大津市浜大津

代表取締役 山崎公信

時代の要請に応え幅広い リサイクル事業を展開

昭和2年に砂利や川砂の採取・販売業として大津で創業した山崎砂利商店。昭和25年には株式会社山崎砂利商店を設立して、地元を中心にさまざまな工事に骨材を提供するようになり、名神高速道路の建設工事では、工場をフル稼働して大量の需要に応えました。

昭和48年からは土木建築事業にも進出、掘削や宅地造成、舗装工事のほか、家屋やビルの解体工事を手がけるようになりました。琵琶湖畔にあった通称「幽霊ホテル」の爆破解体工事を手がけたのも同社で、日本初の高層ビルの爆破解体工事として注目を集めました。

現在同社は、砕石・砕砂製造事業、土木建築業、輸送事業、廃棄物処理・リサイクル事業、



創業間もない頃の車両と当時の採石場



平成30年4月にリニューアルした本社



リートがらや汚染土壌といった従来捨てられていたものへと砂利の原料が変化して中、業界に先駆けて汚染土壌処理業の許可を取得して、汚染土壌リサイクル事業をスタートしました。土壌に含まれる有害物質を洗浄して、自社の生コン工場の骨材や、再生土としてリサイクル販売しています。技術の向上を図るために、土壌浄化や廃棄物処理など数多くの特許も取得しています。

情報共有を図り、風通しのよい 社内づくりを進める

時代の流れを適確に読み、長きに渡って事業を継続してきた同社。その姿勢を変えることなく、社会の変化に高いアンテナを張り、良いことはすぐに実行するという方針で事業を展開しています。

一昨年に建て替えられた社屋は、社長室のないワンフロアで、役員と社員が同じ部屋で仕事をするため、誰が何をしているか、何に困っているかが見えやすくなっています。「営業マンがお客様と話している話し方や内容で何が起きているかよくわかる。幹部が何を考えているか、どうしてそういう指示をしたのかといったことも社員は肌で感じられる。そういうことを大事にしたい」というトップの考えに基づくもの。

さらにテレビ会議システムで各拠点を結び、すぐに意見を交換したり、リアルタイムで情報共有できるようにするなど、風通しの良い環境づくりに取り組んでいます。

汚染土壌リサイクル事業、生コンクリート製造事業、土壌・水質分析事業の7部門を展開しています。



汚染土壌の大規模リサイクルプラント

整備し、がれきや木くずを再生骨材や燃料用再生チップとしてリサイクルしています。安定して質の良い製品を提供するため、業界に先駆けて品質、環境、労働安全、情報セキュリティ、道路交通安全の5つのISOを取得して、品質向上に取り組んできました。また、川砂や山砂を採取して製品化していた時代から、社会の要請にあわせて、コンク

地域社会の一員としてさまざまな 社会貢献活動に取り組む

同社では地元の自治会と災害時の支援協定を締結して、台風による倒木の撤去活動などに協力したり、地域社会の一員として地元の祭りなどへの協賛、学校や地域の団体などへの寄付、道路の美化活動などさまざまな社会貢献活動を行っています。また、同社のグループ会社が運営するスノーボードチーム「ヤマゼン ロックザキッズ」所属の木俣^{きまた}真選手（17歳）が、スイスで行われた第三回冬季ユース五輪のスノーボードビッグエア男子決勝で金メダルを獲得しました。

こういった取り組みについて奥田貴光専務執行役員は、「当社の事業は自然環境を開発する行為も伴うし、土砂を運ぶトラックの通行などを考えると地域社会との共存共生が絶対条件となる。地元の理解があってできる仕事なので、ビジネスで得た利益を地元に戻元することを大切にできた」と語ります。

そして「大津市、さらには滋賀県の営業マンとして、技術や製品を全国に紹介し、土木建設業のみならず幅広い業種のニーズに応え、雇用や設備投資で地元に戻元していきたい」とする同社。社会的課題解決と経済的利益の両立、そして地域貢献というまさに三方良しの経営理念が変わることなく受け継がれています。



工場周辺の通学路の清掃活動を行う社員



スポーツ活動を行う子どもたちの支援にも取り組んでいる。



県内在住の小学生向けの途中工場見学会



土木建築工事で豊富な実績を有する同社



名阪エコセンターにある廃プラスチックなどの処理施設



名阪エコセンターには創業当時の重機等を展示する歴史館が併設されている。



廃棄物の適正処理とリサイクルを行う名阪エコセンター



名阪エコセンターにある統合分析センター

夢けんプラザ絵画コンクールの審査も今年で7回目となりました。この7年間で振り返ると、回を重ねる毎に応募作品や参加校も広がり活動を継続させることの大切さを実感します。今年の特徴として、小学校高学年から中学生の応募作品も増え、新技術を活用した近未来のイメージや、自然災害や環境に配慮した地域の街づくりを考えさせるようなメッセージ性の強い作品が印象に残りました。また、お父さんやお母さんの働く姿や自宅の工事の様子を描いた作品も印象に残りました。絵を描くという行為を通じて、こどもたちが、人との繋がりや未来の社会や地域の歴史に関心を深めるきっかけとなればと思います。この活動を継続させることで、クリエイティブに社会に貢献していける人材の育成に繋がればと願っています。



第2部 小学校高学年の児童
最優秀賞
「夢の未来の工事現場」
中塚 貴博（6年生）

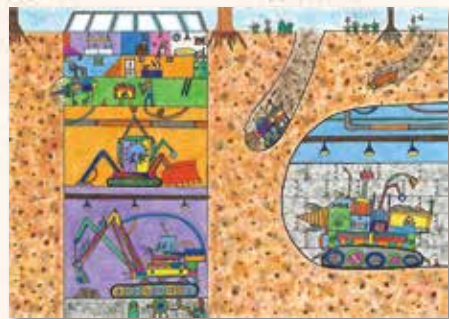
評 2020年に開催される東京オリンピックに向けて空を飛ぶ車が実現しようとしています。この作品は、私たちが想像する近未来の世界をリアルに表現しています。ドローンとパワーショベルが合体した空飛ぶ重機や、ガラス張りでの有機的なフォルムの建築物などが、この作品に強い説得力を与えています。



「鉄塔工事」
兵藤 叶望（6年生）
評 夕暮れを背景に逆光をイメージして黒一色で描かれた鉄塔や人の姿がロマンチックな作品です。植物や電線のシルエットも効果的で構図の美しい作品です。



「琵琶湖と浮御堂」
丸井 湧斗（6年生）
評 近江八景の一つである浮御堂を描いた美しい作品です。特に雲や湖面の表現が素晴らしく、空間の広がりや湖面に反射する光を繊細に捉えています。



「未来の地下住宅」
高橋 廉叶（5年生）
評 人口増加に伴い将来は地下空間の開発が進んでいるというメッセージ性の強い作品です。大地と人を繋ぐための技術のあり方を問うているような深い作品です。



「白鬚神社と朝焼け」
小森 豪（6年生）
入選



「がんばれブルドーザー」
横井 明愛（5年生）



「工事でがんばる人」
中川 博之（4年生）



「1台3役の夢の機械」
村瀬 瑛斗（4年生）



「火星を宇宙船から工事中」
浅田 遥（4年生）



「夕焼けと勢田の唐橋」
陌間 こと芭（6年生）

第7回 『夢けんプラザ絵画コンクール』



次世代を担う子どもたちに向けて、建設産業の魅力を発信する目的でスタートした滋賀県建設業協会の「夢けんプラザ絵画コンクール」。安全で快適な暮らしを送るためのインフラ整備や、まちの豊かな環境の整備など、多くの役割を建設産業が担っていることや、その役割の大切さに関心を持ってもらい、子どもたちの豊かな感性や観察力、創造力を育むことを目的に開催される、県内の小中学生を対象とした絵画コンクールです。



評 下から見上げるような構図は、ロボットのダイナミックさを強調しています。バケットやドリルのついたアームのギンギンとした表現は、土や岩の重さや硬さが伝わり、ロボットの力強さが表現されています。手前のコントローラーや右下の作業員も描くことで、作品全体に映画のような物語を感じさせる優れた作品です。

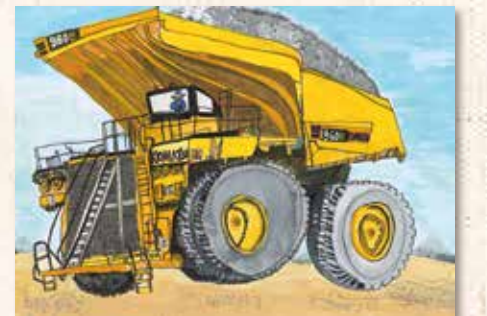
第1部 小学校低学年の児童
最優秀賞
「ドリルユニボフォーマー」
中井 遥斗（2年生）
テーマ
①「工事ではたらく機械」
・あったらいいと思う未来の建設機械
・迫力ある建設機械
②「工事ではたらく人」
・工事をしている未来の自分
・工事現場でがんばって働く人の様子
・思わず動きたくなるような、未来の建設現場
③「滋賀の建設物」
・滋賀の建物や町並み
・便利な生活を支え、災害から人々を守っている道路、橋、ダム
優秀賞



「何ができるの？」
南光 純寧（1年生）
評 絵の中に登場するたくさんの人々の会話が聞こえてくるようです。「何ができるの？」と聞かけると、作品や作者と対話ができる楽しい作品です。



「ぼくのいえ」
南 早弥汰（1年生）
評 工事現場を描くことで、屋根をじっくり眺めたり、壁の中を覗き込んだり、普段とは違う視点を体験しています。その新鮮な感動が画面から伝わる素敵な作品です。



「強いぞダンプカー」
新庄 安憲（3年生）
評 巨大なダンプトラックを緻密に描いた秀作です。画面いっぱい描く大胆さと細部まで細かく描く緻密さがこの作品の魅力です。



「ママのお仕事」
桐畑 優希（3年生）



「パパのお仕事」
桂田 叶乃（2年生）



「道路ではたらくショベルカーとトラック」
高橋 謙心（1年生）



「大きなたてものを作るきかいたち」
丸井 篤斗（1年生）



「未来の浮いているカフェ」
山本 優奈（3年生）



「ぼくの好きなショベルローダ」
鳥居 仙都（2年生）



「未来の工事げん場タブレットで」
中村 希愛（3年生）



夏は鮎など旬の食材も楽しめる。



櫓の湯船の五右衛門風呂



ヨガ教室も開かれる屋根裏

●農家民宿 たらいち邸 ●高島市マキノ町上開田145-1
●080-8182-4355
●カフェ(休憩処たらいち)
水曜 10:00~15:00 日曜 13:00~17:00
●https://www.taraichi.com

夢 Interview

大学卒業後にマキノ町に移住 田舎体験付き農家民宿で高島の魅力を発信

おくどさんに囲炉裏、五右衛門風呂…マキノ町上開田にある一棟貸切の農家民宿「たらいち邸」は、築150年の古民家をリノベーションしたもの。

田舎の祖父母の家に遊びに来たような懐かしさを感じたり、また初めてなのに「ただいま」と言いたくなるようなどこか懐かしいぬくもりに心癒される場所です。

愛知県出身で滋賀県内の大学に入学、卒業を機にマキノに移住して、「たらいち邸」を開業した河野至宏さんを訪ねました。

●この上開田の集落とのご縁はどのようにできたのですか？

大学に入学してボランティア活動に関心を持つようになり、大学の紹介で過疎化の進む集落を訪れて、ワークキャンプというかたちで高島市を訪れ、冬は雪かき、夏は防火水槽の清掃や動物除けの電気柵の手入れ、草刈りなどをするようになりました。

4回生の時に、こちらの薬師堂の月まわりという法要のお手伝いをするために、半年間この集落に通ったのですが、集落のみなさんと交流する中で、人の温かさや豊かな自然に心惹かれるようになり、いつかここに住めたらいいなと考えるようになったんです。

●卒業後、すぐマキノに移住することを決意されたのでしょうか。

卒業後、企業に就職して少し働いてから地域おこし協力隊に応募するとか、リタイアを機に移住するとか、いろいろなライフステージを考えた末、卒業と同時に空き家になっていた古民家を借りて移住することに決めました。社会経験もないし資金もなかったけど、自分でできることからやってみようと考えて、もともと農業をしたいと思っていたので、まず近くにある農業公園マキノビレッジで働くことにしました。

●そして、「昨年仕事を辞めて、農家民宿「たらいち邸」を開業されたんですね。開業資金はどのように準備されたのですか。

自己資金と公庫からの借入金のほか、クラウドファンディングで資金を集めて、改修や備

品の購入にかかる費用に当てました。できるだけ経費を抑えるために、集落にある工務店のご主人や大学の後輩に手伝ってもらって、できることは自分でセルフビルドしました。

●1年間、営業されてどんな手応えがありましたか。

オープンして1年目は、なんとかぎりぎりのご利用目標を達成できました。子ども連れのお客様には、おくどさんや五右衛門風呂体験はとても喜んでいただけたし、自分たちで採った野菜を食べたり、庭で流しそうめんをしたり、思い出に残る体験をしていただけたのではないかと思います。

●今後、民宿をどのように運営していきたいと思われていますか。

週に2回カフェをしたり、畑で育てた野菜を直売所に販売したりしていますが、やはり本業の民宿の宿泊客を増やすことが課題で



収穫体験のほかおくどさんでご飯を炊いたり、五右衛門風呂をわかしたりさまざまな田舎体験ができる。

●これからの夢について聞かせていただけますか。

まずは民宿の経営を安定させること。新型コロナウイルス流行の影響など心配要因もありますが、外国からのお客様にも、いわゆるインバウンドで人気のある施設とは一味違った、日本の魅力を伝えられるのではないかと考えています。

そして、ここを集落の子どもたちが自由に立ち寄りお年寄りや交流したり、地域の文化を学んだりするような交流拠点として活用していきたいと思っています。また、地方でもこんな働き方ができる、こんなビジネスの可能性があるということを発信できればと考えています。



夕食は収穫した野菜やジビエを囲炉裏で焼いて。



『たらいち邸』共同代表 河野 至宏さん



評

正確に描かれたパワーショベルの具象的な表現と、激しい筆致で表現された抽象的な表現の組み合わせが面白い作品です。特に、この抽象的な表現が魅力的で、重機の激しい動きや飛び跳ねる土砂のようにも見えますが、現場で働く人の感情や作者の感性といった具体的な形で表せないものも表現しています。

最優秀賞

「必死ではたらく機械」
菅 伊吹（1年生）

優秀賞

「安土城」
野田 咲枝（2年生）



「比叡山延暦寺」
松吉 美奈帆（2年生）

比叡山延暦寺の複雑な構造から生まれる陰影や木や石といった質感の違いなどを、色彩を工夫して丁寧に描いた力作です。



「瀬田の唐橋〜今も昔も交通の要衝〜」
平松 直大（2年生）

瀬田の唐橋の風景を、丁寧に観察して描いた秀作です。立体感を表現するために、光の向きを工夫しているのが随所に感じられます。



全体的にシックな色調で描いた画面の中に、月夜に照らされた天守閣や星座など鮮やかな色を対比させることで、幻の安土城を幻想的に表現しています。



「白髭神社」
若林 百香（2年生）



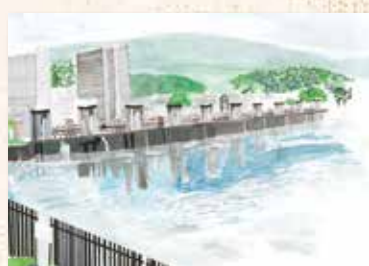
「23世紀の機械」
土田 ちこ（3年生）



「冲原神社」
奥村 是樹（2年生）



「未来の工事現場」
大澤 佑馬（1年生）



「人々を守る瀬田川洗堰」
加藤 真人（2年生）



「今に伝わる井伊の野望と光」
吉川 風（1年生）

夢けんプラザ絵画コンクール表彰式

『第7回夢けんプラザ絵画コンクール』の審査会が令和元年9月30日(月)に行われ、第1部(小学校低学年)、第2部(小学校高学年)、第3部(中学校)より、それぞれ最優秀賞、優秀賞、入選作品が選ばれました。

各最優秀作品については、下記の日程で各学校を訪れ、表彰式を執り行いました。

第1部	最優秀賞	野洲市立中主小学校	令和元年12月4日(水)
第2部	最優秀賞	大津市立堅田小学校	令和元年11月27日(水)
第3部	最優秀賞	東近江市立永源寺中学校	令和元年12月5日(木)



『創立70周年記念誌』を刊行しました。

一般社団法人滋賀県建設業協会は昭和13年9月に滋賀県土木建築業組合として設立、昭和24年11月に『滋賀県建設業協会』と改称しました。協会の創立から70年目に当たる、令和元年11月25日には創立70周年記念講演会が開催されました。

また、協会の歩みを記録した『創立70周年記念誌』を制作して、記念品の銘板とともに会員のもとにお届けしました。



創立70周年記念講演会を開催

11月25日(月)ピアザ淡海において、講師に京都大学大学院工学研究科教授藤井聡氏を迎え「インフラノベーション〜滋賀の未来〜」と題して、記念講演会を開催しました。

この講演会は青年部次世代創造委員会が企画運営したもので、当日は協会会員事業者約200名の参加がありました。

冒頭、桑原会長から「昭和24年11月25日に滋賀県建設業協会と名称を改称し、本日、創立70周年を迎えることができたのは歴代の会長、役員と会員皆様の献身的なご協力の賜物です」と感謝のことがあり、続いて「藤井先生は、常に公共工事の必要性を主張されており、国土強靱化政策の推進は、先日来全国各地で頻発している台風、豪雨の被害状況を見るに疑う余地はない。本日はさまざまな観点から滋賀県が元気になるような話が聞けることを楽しみにしている」とあいさつがありました。

講演会では、はじめに藤井教授は「人間の歴史は何もない原野から平安遷都で作った道路が京都の骨格となり、利根川の付け替えで江戸が繁栄し、明治維新では鉄道・運河(港湾)などのインフラ投資が経済大国日本へとつながった」と語り、「今の日本は明らかにインフラなど投資しておらず、一帯一路に大きく投資する中国の3分の1であり、このままでは確実に衰退し21世紀中盤から22世紀には先進国から転落するだろう」と危機感を示されました。また、滋賀県のインフラについては、琵琶湖を資産としていかす湖畔・水辺の利用や下水道資源の活用、砂防事業などへの投資を提案、最後に「国土強靱化で予算は少し増加した。この流れはまだしばらく継続するので、この間にインフラ投資の流れをつくらねばならない」とよびかけました。

参加者は熱心に聴講されて、有意義な講演会を実施することができました。



滋賀県建設業協会の活動について
ご紹介するコーナーです。
協会広報委員会のフェイス
ブックもあわせてご覧ください。

夢けんひろば

『滋賀けんせつみらいフェスタ2019』を開催しました。

令和元年10月19日(土)、滋賀県建設産業魅力アップ実行委員会の主催で、建設産業の魅力を発信する『滋賀けんせつみらいフェスタ2019』を大津港にて開催しました。

建設車両の試乗体験や手づくり体験コーナーなど、官公庁および建設産業団体連合会加盟団体を中心に35ブースの出展がありました。

また、ステージでは滋賀県の若手・女性技術者表彰、作文コンクール・フォトコンテスト入賞表彰のほか、小学生の太鼓演奏や高校生による軽音楽・吹奏楽の演奏、木下洸希さんによるジャグリングショーなどをお客様にご観覧いただきました。

あいにくの雨模様となりましたが、約2,400名のお客様にご来場いただき、大盛況のうちに幕を閉じました。



婚活パーティーを開催しました。

11月9日(土)夢けんプラザにおいて、婚活パーティーが開催されました。

当日の参加者は男性17名女性15名で、はじめに毎回好評の男性参加者の職場での姿のスライド上映からスタートしました。その後、プロフィールカードを見せながら全員と一人ずつ話をする「1対1会話」になると、緊張しながらも仕事の話や趣味、休日の過ごし方について、笑い声もまじえながら賑やかな雰囲気でも盛り上がりました。

最後の「フリータイム」では、男性の中には急に消極的になる方があり、スタッフから声を掛けられ、意中の女性の前に移動する姿に思わずエールを送ってしまいました。

そして、エンディングでは5組のカップルが誕生しました。

また終了後のアンケート結果では、「次回も参加したいと思いますか」の質問に対し、9割が「はい」と回答。「楽しかった」「仕事ばかりでなかなか出会いの場がなく、参加してみましたが楽しかった」との意見を多数いただき、帰り際にライン交換している姿を見たり、そのまま食事に行かれた話を聞くと主催者としては嬉しい限りです。

仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

草野球やゴルフ、マラソン、
ロードバイクなど
仲間に恵まれ、のびのびと楽しむ休日

株式会社明豊建設 桐畑 剛



ちのマラソン大会に出場して
たのですが、足を痛めてしまい、
走る代わりに今度はロードバイ

何かを始めるとはまってしまいう性格で、これまでも野球、ゴルフ、マラソン、ロードバイク、山登りなどいろいろなやってきました。漬物を作るのに凝ったこともあります。

野球は学生時代から長くやっていなかったのですが、4年前に故郷の余呉に戻ってから、地元の草野球チームに誘われて試合に出るようになり、建設界野球大会にも出場しました。どちらかと言つと、試合が終わってからの飲み会が楽しみというところがあります。

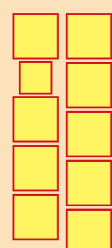
若い時にはまって久しくやっていなかったゴルフも、同級生がみんなゴルフをしていたので、誘われてまた始めることになりました。当社では以前からゴルフをやっている人が結構いて、『本友会』『明工会』といったコンペも行われていたのですが、私がコンペのセッティングを頼まれるようになってから、新たに始める社員も出てきて、今はちょっとしたゴルフブームが巻き起こっています。

40代で体重を落とすためにジョギングを始めたところ、これにもすっかりはまってしまい、5キロ、10キロと距離を伸ばして、ついにはフルマラソンで大会に出るまでに。一時はあちこちのマラソン大会に出場していたのですが、足を痛めてしまい、走る代わりに今度はロードバイ



クに乗るようになった。流行りのピワイチはもちろん、伊吹山で年1回開催されるレースや鈴鹿の耐久レースにも出場しています。

そのほかにも同級生に誘われて滋賀県内の山に登ることもあります。声をかけしてくれる仲間にも恵まれているせいか、次から次へと楽しめることが出てくるため、退屈している暇がありません。現在もゴルフはもちろん、草野球、ランニング、ロードバイクを楽しみつつ、週末は自宅で同級生や近所の方々と麻雀を楽しんだり、菜園で野菜や花を育てたりと忙しい休日を送っています。



- ① チ ○ ○ ○ ○
- ② ○ ○ ○ ○
- ③ タ ○ ○ ○ ○
- ④ スズ ○ ○ ○ ○
- ⑤ ツ ○ ○ ○ ○
- ⑥ シ ○ ○ ○ ○
- ⑦ フリ ○ ○ ○ ○
- ⑧ ス ○ ○ ○ ○
- ⑨ ピナス ○ ○ ○ ○
- ⑩ カ ○ ○ ○ ○

- ① ♪ 咲いた、咲いた…何の花が？
- ② 日本の春を代表する花と言え
- ③ 漢字で書くと、蒲公英。
- ④ 白い釣鐘形の小さな花をつける植物
- ⑤ 種子からとれる油が有名
- ⑥ 立てば○○○○、座れば…
- ⑦ アヤメ科で黄色のほかに
- ⑧ アブラナ科の植物で
- ⑨ 別名、アラセイトウ、
- ⑩ 藤の花を逆さまにしたような花が特徴



しりとりにクイズ
文章を読んで花の名前を答え
ください。
□の文字を組み合わせて…
ヒント 特集「話題の焦点」

滋賀で一番小さな町“豊郷”から
世界の市場へ
株式会社市川農場

〒529-1165
滋賀県犬上郡豊郷町吉田350番地
0749-35-2589
http://ichikawa-farm.jp



サラリーマンからいちご農家に、
加工品開発や輸出にも力を入れる市川代表

栽培を始めた頃は、十分な収穫量が得られず苦しい経営が続いたと言います市川代表。現在は温室内に設置したセンサーで、CO2濃度を計測しながら、人為的にコントロールして収穫量をあげるほか、うどんこ病の防除に微生物農薬を使ったり、害虫駆除に天敵昆虫を使うなど、新しい技術を積極的に取り入れて安定的な収穫量を確保できるようになりました。

「技術はめまぐるしく変化



ハウスではセンサーでCO2濃度を管理して収穫量をあげている。



ハウスで栽培されているのは大粒で甘みの強い章姫

サラリーマンからいちご農家に転身
市川農場を経営する市川健治さんは、大学卒業後フランクフルトとして約10年勤めた名古屋の結婚式場を辞めて郷里の豊郷町に戻り、食品開発の仕事に携わりたいと県内の醤油醸造所に入社、4年半営業として勤めた後、サラリーマンを辞めて就農することを決意しました。

彦根市で大規模稲作を営むフクハラファームで農業の基礎を学び、実家のご両親が米づくりをしていた1ヘクタールの農地を利用してハウスを建て、平成23年から少ない面積でも収量を得られるいちごの栽培をスタートしました。

もともと食品開発をやりたいと考えていた市川代表、バイヤーの意見を聞きながら開発したドレッシングは、当時主流だった酸味の強いものではなく、すりおろした玉ねぎの甘みを活かしたマイルドなタイプで、その味が支持されてロングヒット商品となり、その後、たまねぎの粉末スープも商品化しました。

そして、昨年3月に『いちごバター』が発売されると、たちまち大ヒット商品となりました。販売当初は1カ月400個を目標にしていたのですが、いちごジャムとバターの配合にこだわって実現した豊かな味わいが支持されて、



香港にも輸出されているたまねぎスープ



ロングヒットとなったたまねぎドレッシング

して1、2年で古くなるが、普及指導員と相談しながら日々栽培技術を工夫している」と語ります。

軒先の玉ねぎから生まれた
ロングヒット商品
就農間もない頃、何か収入の足しにできるものはないかと模索していた時に、収穫を終えて軒に吊るしてあった玉ねぎで何かを作ってみようという開発したのが『近江豊郷の農家が育てたたまねぎのドレッシング』でした。



海外の販路開拓にも前向きに
取り組み
「これからの日本は人口が減少して購買力が下がることを考えると、海外に販路を開拓していく必要がある」と言う市川代表は、輸出にも積極的に取り組んできました。

平成27年からたまねぎスープを香港へ、たまねぎドレッシングをアメリカに輸出しています。いちごバターは発売から半年後にアメリカへの輸出が決まり、また今年はシンガポールにも進出することになりました。

今後はどうの栽培も始めたいと準備を進めている市川代表。滋賀県で一番小さい町・豊郷町から全国へ、さらに海外で販売できる商品を生産し、将来は雇用の創出などでも地元貢献したいというビジョンを描いています。



昨年3月に発売して大ヒットしたいちごバター

翌月には予想を超える2000個が完売しました。

前号の答え 働き方改革

パズル&クイズ当選者

原口 久輝さん
桐畑 絵里さん
山田 章さん
廣田 敏夫さん
秋末 紘平さん
山崎美友紀さん
田中 定子さん
山内美代子さん
今江 京子さん
梅下 永名さん

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるってご応募ください。
- 別のハガキにてご応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り
令和2年6月20日必着
- あて先
〒520-0801
大津市におの浜一丁目1-18
(〒滋賀県建設業協会 広報委員会)

取材のぼれ話

平成22年の農業就業人口は260.6万人、31年は168.1万人に。農家人口に占める高齢者(65歳以上)の割合は22年の34.3%から31年には45.2%と、就業人口が減少し高齢化が進んでいることは農業も建設業と変わりません。

新規就農者について見ると毎年5〜6万人いて、そのうち「49歳以下の新規就農者」は毎年約2万人で推移してきたものの、平成30年に5年ぶりに2万人を割り込んでしまい、人手不足で他産業との人材獲得競争が厳しさを増したことが影響したとされています。(農林水産省・農業センサス、農業構造動態調査より)

今号の『ビジネス最前線』と『近江うまいもの紀行』でお話をうかがった市川健治さんは、ブライダルプランナー、食品会社の営業を経て30代で就農されました。いちご農家として栽培方法を工夫しながら大ヒット商品を開発したことや、将来の日本の人口減少を見越して、販路開拓に取り組んできたというお話から、柔軟な発想力や時代を読むセンスを感じました。

また、『夢インタビュー』の河野至宏さんは、大学卒業とともに就農、農



家民宿『たらいち郎』を起業してからも、収穫体験用の野菜を育てるだけでなく、直売所などの求めに応じて、イタリアントマトやパクチー、きゅうりメロンなどのめずらしい農作物も栽培されています。河野さんも、農作物や集落の伝統食などを活用して、他の宿泊施設にはない体験を提供したいとアイデアを温めておられます。

お二人の取材を通じて、どんなビジネスにも言えることですが、売れる商品や顧客に喜ばれるサービスのためには、変化を恐れず、創意工夫や新しい発想を取り入れていくことが不可欠だと感じました。「ぼーっと仕事をしていたら、それこそチコちゃんに叱られるんだろうな」と思った次第です。

After Word

この冬は全くと言っていいほど降雪が無く、ここ近年を振り返っても全国的に過去にない異常気象が続いています。そして更には感染力の非常に強い『新型コロナウィルス』の世界的な感染拡大により人々の生活は脅かされ、いつになれば元の生活に戻るのかとても不安な日々が続いています。皆様に於かれましても細心の注意を払っていただき、日々をお過ごし願いたいと思います。

さて、毎号いろいろな所へ赴き取材しておりますが、今回の取材の中で一番印象的で私自身とても感慨深い思いにさせられたのは、(株)市川農場さんが滋賀の地方から国外への世界的事業を展開されて活躍されていることでした。当然その道のりは楽で簡単なものではなかったという話を聞きましたが、市川オーナーは最初からできないとは考えずに挑戦しておられ、途中挫折しそうになった時も解決策を見出して難局を切り抜けていかれたお話をうかがいました。

この取材の時、私自身を振り返ると日々の仕事において色々な可能性を口にしながらも歳を重ねていく中で、知らず知らずに内心はどこかでネガティブな結果を想定して良い結果を信じきれていない、小さく凝り固まっている自分が居る事に気付かされました。自分が決めた事は、悩んで、立ち止まって、振り返っても良いけれど、決して後ろには戻らずに前に進んでいけば結果は伴うのだという事を、市川オーナーから改めて学ばせていただいたように感じています。

この新しい芽生えの季節を機に、皆様も『自分の可能性』に目を向けて今一度何かに挑戦されてみては如何でしょうか？



市川農場で栽培されている大粒の章姫

イチゴ農家が開発した自信作 こだわりのいちごバター

昨年3月の発売以来、大ヒット商品となつて1年で2万個を完売した市川農場の『いちごバター』。農場を経営する市川健治さんが、娘さんがトーストにいちごジャムとバターをべたべたぬっているのを見て、「これを商品化したらおもしろいのではないか」と思ったことが開発のきっかけになりました。

農場で栽培されている甘みの強い『章姫』で作ったジャムに、北海道産のバターを混ぜて5回の試作の末に完成したもの。「思い切つてジャムとバターの比率を同じにしてみたら、見た目もきれいな淡いピンク色で、いちごの甘酸っぱさとクリーミーなバターのハーモニーが絶妙な商品ができあがった」と市川さん。

いちごの香りやつづつぶ感と濃厚なバター風味の両方が楽しめる黄金比率にたどり着きました。

道の駅などで販売をスタートすると、少し



いちごの甘酸っぱさとバターの風味が絶妙！とリピーター続出

高めの価格設定にもかかわらずリピーターが続出、口コミで広がり、新聞やテレビなどで紹介されると、たちまち人気に火が付きましました。昨年秋にはニューヨークでも販売が始まったほか、豊郷町のふるさと納税の返礼品にも採用されることに。パンと相性のいいバターといちごジャムがタッグを組み、そこにいちご農家ならではのこだわりが詰まった『いちごバター』。滋賀発のうまいものとして、海外でも認知され、長く定着してほしいですね。



豊郷町のふるさと納税の返礼品にも採用されている。



淡いピンクで見た目もきれいないちごバター

いちごバター／190g
1,200円(税抜)

株式会社 市川農場
滋賀県犬上郡豊郷町吉田350番地
<http://ichikawa-farm.jp>
【主な販売場所】
豊郷町観光協会 <http://toyosato-kanko.jp/>
※楽天市場などの通販サイトでも販売しています。

VOICE 読者の声

おじゃましますの奥儀建設さん、いろいろな仕事をされていることがわかりました。除雪作業が印象的でした。

建設業の働き方改革について興味ある内容でした。営業職をしていますので、営業先で本誌の内容をもとにアドバイス等できればと考えています。

父が建設会社に勤めています。その職場で夢けんせつを読み、いろいろと感動しました。

風景写真、特に山岳写真に興味がありますが、建築写真もいいものですね。滋賀県内には多数の神社仏閣もあり、撮影場所には事欠きませんね。

女性が土木に進出するのを応援したいと思います。工業高校出身の女の子もたくさんいるのにもったいない、もっと女性が建設現場に出られる時代になるといいですね。

なんとと言っても表紙の男の子の表情とヘルメット姿がかわいいですね。

人手不足から労働時間が長くなり、ますます働き手不足が深刻になります。石川県の企業の働き方改革の事例のように、改革に挑戦することが急務だと思います。

建設業に従事する人が少なくなり、インフラ整備に対して不安を感じます。業界が活性化することを期待しています。

